



# 6月 令和6年6月1日

## ちびっこの森通信 vol.85

### ★★今月のテーマ★★

- ・衣服調節を行いながら、快適に過ごせるようにする。
- ・梅雨時季ならではの遊びを楽しむ。



### ～今月の園内学習～



- ・足し算…2の段
- ・掛け算…2の段
- ・絵画カード…「燕子花図屏風」など
- ・声に出して読みたい日本語
- ・歴史カード…「伊藤博文」ほか
- ・国旗カード…ヨーロッパ・ロシア地方
- ・地理カード…中国地方



…『草枕』夏目漱石ほか



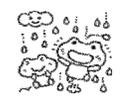
### ～保育のポイント～

これまでの学校では理性的、認知的発達だけを目指してきました。情動的、直感的、創造的発達をめざすことの大切さを知っていても、それらを育てる具体的な方法を持ちませんでした。そんな中、21世紀の後半に医学、生理学、とりわけ脳科学の分野において革命的な発見がなされ、人間の脳はその機能を左脳と右脳の2つに分化させているという発見がありました。人間の脳はこの2つの脳の両方が連動して働く時、最高の動きを示す、ということを手塚大学のノーマン・ゲシュwindとアルバート・ガラバーダは脳を解剖学的に調べ、天才と呼ばれる人達は脳をおしなべて左右バランスよく使っており、普通の人達は脳の使い方が解剖学的に極端に左に偏っていることを立証したのでした。そこで、今までその存在すら認識されてこなかった右脳に「ひらめき」や「想像性」、「創造性」の動きがあり、「感性」や「人間性」も深く関わっていることも分かってきました。さらに左脳は電気系統系の回路で、右脳はホルモン系の情報回路で、人間には2つの異なる情報回路があることも併せて解明されました。(右脳の)イメージには神秘的な動きがあり、それを(潜在的なものを)脳に顕在化させているのが脳内ホルモンの動きであり、脳内の未知なる多くの他のホルモンが奇跡を起こさせる源であると、やがて科学が解明し、より人間の脳の神秘的な動きを明らかにしていくことも近い将来あり得ることでしょう。このように右脳の動きが、次第に科学的に立証されている状況にあります。これからの教育は知識を教えるよりも、本来持っている潜在能力を引き出し、その能力を使う方法を教えることを大切に考えるようにし、知性と直感、心と体、理性と感情の統合教育が大切で、それが教育の究極の目標となることが求められる、とありました。保育園でも非認知能力に着目した保育を取り入れる動きが出てきていますので注目すべき視点としてご紹介する次第です。

～右脳教育で子どもは変わる(七田眞著)より抜粋～



### 「ひよこ」と「りす」組だより



つがいの小鳥が気持ちよさそうに木の枝から枝へと仲良く移動するのに気持ちいい今日この頃。親元を離れ、不安と戸惑いや深い悲しみから脱しきれなかった子たちにもようやく笑顔が戻り、普段着で過ごすことのできる園生活が定着しつつあるようです。清々しい天候の下、バギーやベビーカー組と歩き組とに分かれて外気浴で心地よい外遊びを満喫しています。公園では「おはな」や「あり」をはじめ、地べたに座り土や落ち葉の感触を楽しんでいます。季節の変わり目で夏風邪が流行ってきているようなので体調管理をし、元気に過ごしていけるようにしていきたいと思ひます。



### 「きりん」と「こあら」組だより



水田を吹き抜ける緑風が早苗を揺らす風景が梅雨の到来を予感させる季節。降雨と寒暖差のある天候ながらも、園庭がわりの公園や神社へ遊びに行き帰ってくると額に汗が伝い、ほっぺは真っ赤といった感じですが、暑さに慣れる準備は万全といったところです。排泄に誘うと決まり文句「いやぁ～」が返ってくるものの、トイレで排泄成功や食事でも「嫌、いや」がお口に入れてみると「意外といけるんやん」とばかりに実食につながったりと頑張っています。異年齢で過ごすことから上の月齢児の行動を間近で見聞きすることにより座る姿勢や食べることなどでも「やってみようかな」という、いい効果も期待でき、行動に繋がっているのが何よりと感じています。これから暑くなりますので体調管理をし、健康で過ごしていけるように見守っていきたく思ひます。



### 「ひつじ」と「ぞう」組だより



春先よりもさらに明るさに加え、肌に刺し込む感じのする日差しの強さが夏本番が近いと感じるのは言い過ぎかもしれませんが、蒸し暑さの熱量は間違いなさそうな勢いを感じます。昨春は、2階の生活リズムや雰囲気にも馴染むことからスタートしたひつじ組ですが、今は隣にいるぞう組のお兄ちゃんたちのいい意味でも悪い意味でも手本として、朝の会などでの聴く姿勢などを改めて模倣し、追いつけ追い越せ作戦を至るところで実践しています。ぞう組は自然豊かな公園などで木々や花々を愛でたり、虫探索に精を出したりして自然との触れ合いを楽しんでいます。先日、トマト苗植えをし、これからお世話をしていくことも楽しみにしているようです。季節の変わり目に注意をして、元気に過ごしていけるようにします。



### 給食だより

### ～食中毒注意報への対策～



開花期短く淡色で心ませしてくれる桜同様に、清々しい春の季節もあつという間の選手交代。そして、昨今、ジワジワというよりパツと入れ替わって秋の居場所も奪い居座る蒸し暑い夏が定番となっています。このように気温と温度が高くなってくると、注意しないといけななのが食中毒。今や国民食の一つで世界でも人気のカレーですが、「二日目のカレーが絶品」と言われ、常温保存したものを食し食中毒で大変、というニュースも記憶に新しいところではないでしょうか？食中毒は有害な微生物(細菌やウイルス)に起因する健康被害と言われ、このカレーのケースのように食品や飲料を介して有害物質が体内に入り、腹痛、嘔吐、下痢や発熱などの症状に見舞われる状況を指します。中でも、暑くなる季節に気をつけたいのが細菌で、これは1年を通じて発生するのですが、特に食中毒を引き起こす細菌は30～40℃で最も増えやすいのでこれから暑くなる季節は要注意と言えます。家庭で発生する食中毒は食品の取扱いの不注意から起こることが殆どですから、その予防は「付けない」、「増やさない」に「やっつける」の3原則を頭に入れ、注意していくようにしましょう。まずは、手洗いの励行、(生野菜を切ってから肉類を切るなど)調理の手順や使用したまな板の消毒の励行などが「付けない」ことでは重要。冷蔵品や冷凍食品は放置することなくすぐに冷蔵・冷凍庫へ保管するようにしましょう。冷蔵庫の詰め込み過ぎや長期間の保管も避けることが「増やさない」ということで念頭に置く必要があります。最後に、多くの細菌が75度以上、1分以上の食材の中心部まで加熱することで死滅することから「やっつける」上で大切なことです。最後に、使用後の調理器具の殺菌には塩素系漂白剤に含まれる次亜塩素酸ナトリウムが有効ですので洗剤で洗った後の殺菌も励行すると安心に繋がります。後は、食べる前に自分で食品の色あい、臭いや口に含んだ際の味わいなどで異変を感じたら食べない、という自己防衛を図っていき、元気にすごしていけるようにしましょう。

♪今月の歌♪

- ◇あめ
- ◆とけいのうた

～行事予定～

- ・英語教室…4日(幼児)
- 7日(乳児)
- ・歯と口の健康週間の会…4日
- ・書道教室…6日・13日・20日・27日
- ・体操教室…10日(2歳児・4・5歳児)
- 11日(0・1歳児/3歳児)
- ・内科健診…11日
- ・リミック教室…17日(乳児)
- 24日(幼児)
- ・歯科健診…19日
- ・身体測定…19日(幼児)
- 20日(乳児)
- ・お誕生日会…25日
- ・避難訓練…26日

